

日本デジタル教科書学会



ニュースレター No.22

2022年11月

編集：日本デジタル教科書学会 広報委員会  
(news@js-dt.jp)

発行：日本デジタル教科書学会 事務局  
〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町  
京都大学教育学研究科内

HP：http://js-dt.jp/ e-mail：office@js-dt.jp

## 第 11 回年次大会（京都大会）を開催致しました（御礼）

【JSDT 第 11 回年次大会（京都大会）対面・オンラインハイブリッド開催】

8月20日（土）、21日（日）開催の日本デジタル教科書学会第11回年次大会（対面・オンラインハイブリッド開催）には、約250名の皆様にご参加いただきました。また、24件の素晴らしい研究発表をしていただきました。

第11回年次大会では「教育DXがもたらす教育の再構築～GIGAスクール時代の学びのあり方～」を大会テーマとし、デジタル教科書活用、今後の授業デザイン、学びのあり方について多面的な視点から捉え、考える大会を志向しました。

1日目の午後の基調講演には、経済産業省商務・サービスグループサービス政策課 教育産業室長に7月に就任されたばかりの五十棲浩二氏をお招きし、「教育DXでつくる「未来の教室」」というテーマでご講演をいただきました。ご講演の後、参加者からの質疑応答、ディスカッションという流れの進行で、90分の時間があっという間でした。デジタル教科書の大学教職課程での活用についての課題なども出され、一つ一つの質問に丁寧に応えていただきました。中学校・高等学校の副校長のご経験もお持ちで、そのご経験を踏まえてのお話や示唆を伺うことができました。「デジタル教科書に期待すること」、「日本デジタル教科書学会の皆様にご期待すること」についてもお話しいただき、今後の学会の研究活動に向けての大きなエールをいただきました。

2日目の午後の特別講演には、神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部教授の石井雅章先生をお招きし、「STEAM教育の可能性—持続可能な世界のためのリベラルアーツ」をテーマにご講演いただきました。環境社会学をご専門とされる石井先生からは、「STEAM教育がめざすもの」、「持続可能な世界」、「持続可能な世界に向けての学び」の3つの観点からお話をいただきました。お話の中で私たちは「科学・学問・技術・芸術・表現手法が相互に

結びついた世界のなかで生きている」ので課題解決のために「コーディネーション（調整）」「コラボレーション（共同・協働）」「インテグレーション（統合）」が必要であり、STEAM 教育は単なる教科横断ではなく、「統合的な学び」として捉えていく必要があるという点が印象的でした。さらに SDGs についても詳しいお話をいただき、私たちが今後の「授業デザイン」や「学びのあり方」について考えるための大きな示唆をいただきました。



本大会における若手優秀賞は、坂口嘉菜氏（上越教育大学）「聴覚障害者用教科書のデジタル教科書に求められる機能～機能評価の観点の分析から～」でした。

また若手奨励賞は村上綾菜氏（お茶の水女子大学）「データサイエンス初学者のための Web アプリケーション教材の検討」と山本周氏（聖学院中学校高等学校）「教科横断型による情報 I 「情報デザイン・データの活用分野」の教材開発と授業実践～社会課題発見・解決体験型学習 SDC と総合探究の接続を目指して～」の 2 件でした。デジタル教科書のプロトタイプ制作や今年度から高等学校で始まった「情報 I」の授業を意識したアプリ開発、授業デザインなど時代の流れに即応した実践研究でどれも素晴らしい研究発表でした。

この 3 年間、京都大学に本部を置き、昨年までの 2 年間はコロナ禍の政府の行動制限のため、フルオンラインで開催しましたが、今回はようやく対面・オンライン（ハイブリッド）での開催ができました。これも参加いただいた皆様のご理解とご協力があってこそ実現できたことであると思います。

次年度大会（第 12 回年次大会）は信州大学（大会実行委員長：島田英昭先生）を会場に開催を予定しています。今後とも本学会をよろしく願いいたします。

日本デジタル教科書学会第 11 回年次大会 大会実行委員長 反田 任  
日本デジタル教科書学会 会 長 広瀬一弥

## ■ 第 11 回年次大会（京都大会）において若手優秀賞、若手奨励賞を授与いたしました

本学会では、若手の実践者や研究者を発掘し、その活動を後押ししようと、年次大会において若手優秀賞、若手奨励賞の授与を行っています。

この賞は、35 歳以下の筆頭者を対象に年次大会へ早期締切までに投稿された研究の中から、特に優れた研究を行った方に対して贈られます。

受賞者の発表は、大会初日に行われ、坂田編集委員長と島田副会長から講評がありました。

受賞された皆様、おめでとうございます！！

### 【若手優秀賞】

受賞者：坂口 嘉菜 氏（上越教育大学）

聴覚障害者用教科書のデジタル教科書に求められる機能：機能評価の観点の分析から

### 【若手奨励賞】

受賞者：村上 綾菜 氏（お茶の水女子大学）

データサイエンス初学者のための Web アプリケーション教材の検討

受賞者：山本 周 氏：（聖学院中学校高等学校）

教科横断型による情報 I 「情報デザイン・データの活用分野」の教材開発と授業実践

-社会課題発見・解決体験型学習 SDC と総合探究の接続を目指して-

山本周（聖学院中学校高等学校）

これらの賞の選考方法は次のとおりです。

- 学会理事から 5 名の選考委員を選出し、審査を行います。
- 発表予稿に対して「新規性」「論理性」「有用性」「将来性」の 4 観点について、それぞれ 5 点満点で選考委員が採点します。採点時には、著者名・所属を除いた予稿を用います。
- 上記の合計点の上位 3 名を受賞候補者とします。
- 大会初日の午前に受賞候補発表セッションを設け、候補者にご発表いただきます。その後、選考委員の合議により、最も優れていると考えた候補者に「若手優秀賞」を、若手優秀賞に続き優れていると考えた候補者に「若手奨励賞」を授与します。

## ■ 研究グループ報告

茨城県内の小学校・義務教育学校の教員及び大学教員を構成メンバーとして研究グループを組織し、本学会より支援をいただきました。支援いただいた期間は、令和2年9月～令和3年8月までの1年間です。期間中、月に一度対面及びオンライン学習会を開催し、実践を交流してきました。

メンバーは以下の通りです。

川澄陽子（那珂市立横堀小学校）、伊藤崇（那珂市立瓜連小学校）、黒羽諒（那珂市立芳野小学校）、藤原晴佳（つくば市立春日学園義務教育学校）、内田卓（つくば市立吾妻小学校）、橋本順徳（北茨城市立平潟小学校）、小林祐紀（茨城大学）※所属はすべて当時

「①小学校プログラミング教育の授業開発」及び「②1人1台端末の活用方法に関する事例開発」の2つのテーマを設定し、メンバーの課題意識に応じて取り組みました。

①について、学習指導要領が全面実施になったものの、コロナ禍の影響により、小学校プログラミング教育の実践は未だ実施されていないところが多いのが当時の現状でした。そこでGIGAスクール構想による整備前のICT環境や協働で学ぶことに関する制約の中、どのような授業が可能なのか検討しました。また、小学校プログラミング教育の授業開発に取り組むと共に、プログラミングの授業に必要な授業の実践的知識について検討し、中学年の実践や教員研修プログラムを開発しました。

②について、GIGAスクール構想の前倒しによって、1人1台端末やネットワーク等の環境整備が急速に進むことが想定されましたが、教員の活用イメージの獲得は十分ではないと予想されました。そこで、1人1台端末の活用方法に関する事例を持ち寄り、内容を検討・整理しました。また、それぞれの勤務校での普及促進事例の収集を交流し合いました。さらに、メンバーを対象に面接調査を行い論文にまとめた大坪優太氏（茨城大学大学院）は、日本デジタル教科書学会第10回年次大会(京都大会)にて、「1人1台端末活用に関する小学校教員が考える阻害要因及び改善法の提案」というタイトルで発表したところ、若手奨励賞を受賞するに至りました。

研究グループを構成する数人は所属が変わったものの、学習会は今なお定期的に行っています。これからも教師の授業力量の形成に寄与できる取組を継続していく予定です。

（文責：小林祐紀）

# 2022 年度理事体制について

2022 年度の体制について、ご報告をさせていただきます。

**会 長** 広瀬 一弥（亀岡市みらい教育リサーチセンター）

**副会長** 稲田 健実（福島県立平支援学校）

片山 敏郎（新潟市教育委員会）-広報・組織担当-

坂田 陽子（愛知淑徳大学）-研究・編集担当-

## ■ 研究委員会

**委 員 長** 稲田 健実（福島県立平支援学校）

**副委員長** 佐藤 和紀（信州大学教育学部）

**委員（50音順）** 岩山 直樹（富山大学人間発達科学部附属小学校）

竹中 章勝（奈良女子大学 金城学院大学 桃山学院大学）

長谷川春生（富山大学大学院）

## ■ 編集委員会

**委 員 長** 島田 英昭（信州大学学術研究院教育学系）

**副委員長** 坂田 陽子（愛知淑徳大学）

**委員（50音順）** 市原 靖土（大分大学教育福祉科学部）

寺尾 敦（青山学院大学）

森下 孟（信州大学学術研究院教育学系）

## ■ 広報委員会

**委 員 長** 小林 祐紀（茨城大学）

**副委員長** 水越 綾（杉野服飾大学）

**委員（50音順）** 一戸 信哉（敬和学園大学）

大熊 太郎（昭和女子大学附属昭和小学校）

大関 正人（新潟市立浜浦小学校）

加藤 悦雄（大妻中学校高等学校）

工藤 豪（昭和女子大学附属昭和小学校）

反田 任（同志社中学校・高等学校）

## ■ 事務局

**事 務 局 長** 久富 望（京都大学教育学研究科）

**副事務局長** 杉山 一郎（十日町市立馬場小学校 教頭）

**事 務 局 員** 上田 昌史（京都産業大学）

#### ■ 第 12 回年次大会実行委員会

実行委員長	島田 英昭（信州大学学術研究院教育学系）
委員（50 音順）	大熊 太郎（昭和女子大学附属昭和小学校）
	工藤 豪（昭和女子大学附属昭和小学校）
	佐藤 和紀（信州大学学術研究院教育学系）
	森下 孟（信州大学学術研究院教育学系）

#### ■ 監事

反田 任（同志社中学校・高等学校）
林 俊行（新潟市立亀田東小学校）

#### ■ 顧問

岩居 弘樹（大阪大学）
-------------

#### ■ ICT CONNECT 21 担当

担当理事	高瀬 浩之（松戸市立和名ヶ谷中学校）
------	--------------------

## ■ 第 12 回年次大会（信州大会）の開催について

2023 年の日本デジタル教科書学会(JSDT)年次大会（信州大会）を、信州大学にて開催予定です。日程は8月上旬～中旬を予定しております。